別記様式第６号

産地技術導入支援事業（新技術導入広域推進事業）に関する事業評価票

事業実施主体名	新技術の内容	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	成果目標の達成状況							具体的な取組内容	地方農政局長等の意見
				基準年（計画策定時）平成24年	目標年 平成28年	改善計画実施結果			目標値	達成率		
						令和2年	令和3年	令和4年				
沖縄県	沖縄県育成ゴーヤー新品種「研交６号」の普及に向けた実証	25年度	ゴーヤ新品種「研交６号」の栽培面積	1.2ha	9.1ha	8.1ha	7.2ha	6.2ha	(31.0ha) 17.4ha	35.6%	○平成25年度 ・実証展示ほ設置等検討会（１回） ・実証展示ほ設置（６地区：９カ所） ・現地検討会（全体２回、北部３回、中部２回、南部２回、宮古３回、八重山３回） ・H25年度成績検討会（１回） ○平成26年度 ・現地検討会（全体１回、北部３回、中部２回、南部１回、宮古２回、八重山１回） ・技術マニュアルの作成（１回） ・成績発表会（研修等）（１回） ・実証展示ほ設置（２回目）（10カ所）	本事業の成果目標である「栽培面積」は、これまで目標が未達成であったため、令和２年度に目標値を31haから17.4haに変更して改善計画を実施した。しかし、改善計画の実施結果は6.2haで、達成率35.6%となった。 本事業の実施により、平均気温の高い八重山地域では、「てぃだみどり」（研交6号）の普及が進み、栽培面積の割合が増加するなど、一定の事業成果が見られる。 しかし、八重山以外の地域では、事業実施後８年が経過し、既存品種の課題であった実腐病の防除技術が向上したことにより、農家が栽培管理に慣れている既存品種を選択する傾向が強まり「てぃだみどり」への切替えが進まないなど、成果目標の達成が困難となるような事態が生じており、沖縄県からは、評価終了の改善計画が提出された。 当局としても、今後、沖縄県が改善計画を継続しても、目標達成は困難な状況にあり、今年度で本事業の評価を終了することは、やむを得ないものと判断した。